

# 令和5年度 総務文教委員会 政務調査報告

報告者 上迫正幸

調査日 ; 令和5年 10月30日～11月1日 2泊3日

調査地 ; 10/31 岡山県 奈義町 11/1 岡山県 西粟倉村

調査目的 ; 先進事例等を調査し市政発展に生かすため

## 岡山県 奈義町 10月31日(火)

### 【調査事項】

※ 市民サービス協働化提案制度について

1. 市民サービスを協働化することのメリットについて
2. 現在の活動状況について
3. 協働化後の市民の声について

### 【奈義町の取組】

奈義町存続のため「人口減少」は最大の課題

課題 : 人口減少・少子高齢化

対策 : 定住促進のための

- ・子育て支援施策（産み育てる環境）
- ・住宅施策
- ・魅力のある教育
- ・就労の場の確保施策（働く環境）

目標 : 現在の人口を維持すること

#### I. 奈義町子育て応援宣言

子供たちは次代を担うかけがえのない存在で、奈義町を守り支えてこられたお年寄りと共に奈義町の大切な宝である。奈義町に住めば子育てが安心、奈義町は子育てがしやすいまち、との声が全国に広まることを目指し、「家庭・地域・学校・行政みんなが手を携え地域全体で子育てを支えるまち」を目指し、「奈義町子育て応援宣言」を町民に対して行った。

#### II. 奈義保育園でおむつのサブスクを導入した。

保護者は登園時のおむつとおしりふきの持参が不要となり、保護者の負担軽減と保育現場の業務効率化につながる。またおむつのサブスクの導入に合わせて「災害時における救援物資等の提供等に関する協定」をサービス会社と締結。保育園の在庫のおむつを、災害時に町内で無料配布するとともに、災害時においても保育施設に製品の補充等が行える体制を同社が整える。

### III. 産前産後のアプローチ

- ・保健師による母子手帳交付時の面談
- ・きずなメールによる情報配信
- ・保健師による新生児全戸訪問
- ・母乳相談（大変好評である）
- ・産後ヘルパー

## 【調査結果・総括】

1. 少子化対策は子育て世代だけの問題ではないだからこそ、課題をみんなで考える
  - ・今ある商店やスーパー、病院、交通機関など、生活に必要な施設や機能、サービスを維持することが難しくなる。
  - ・少子化による人口減少はこの町を守り育ててくれた『高齢者』の安全・安心な生活にもつながる課題である。
  - ・少子化による人口減少は、この町に住む全ての人に関係する最大の課題である。
  - ・子供から若者、高齢者まで住みよい町をみんなで創るため、住民のみんなで町の未来を考える。

### 【前述以外行っている事業の事例】

- ・奈義チャイルドホーム開設→ ちょっと子供を預けたい時の一時保育「すまいる」  
週4で通え、親同士で協力する保育活動「自主保育たけの子」  
助産師等の講師をまねいての座談会や赤ちゃんを連れて参加できるイベントの開催
- ・しごとコンビニ事業
- ・奈義しごとえん→人・地域・しごとをつなぐ→企業・個人・役場
- ・子どもの見守り「こもりん」→大人が交代制でこどもたちを見れる仕組み  
上記以外に、企業誘致、賃貸住宅提供、分譲地整備など

今回の調査において直接市民に聞く機会はなかったが、最大の目標である『現在の人口を維持すること』にむけて、町民と行政との信頼関係が構築されていることが伺えた。特に地域みんなで子育て支援するため行政はじめ町民、各種団体協力そして結束し、目標に向けて一致団結しているところに目が向きました。

また、制度よりも必要性に応じて、協働で実施することが大事であり、協働は目的ではなくまちづくりの重要な手段である。との認識で取り組んでいることに感銘を受けた。

# 岡山県 西粟倉村 11月1日(水)

## 【調査事項】

※ ローカルベンチャー支援について

- (1) 地域再生マネージャー事業
- (2) 百年の森林事業開始
- (3) ローカルベンチャースクール開始
- (4) ローカルベンチャー推進協議会設立(広域連携)
- (5) TAKIBI プログラム開始

## 【西粟倉村の取組】

### 1. 地域マネージャー事業

西粟倉村は、財源が乏しい。そこでアマタHD会長をお招きし①「第一次産業が元気になれば、中山間地域は活性化する」②「大量生産・大量消費に時代は終わる」との考えから山林を使い人と人のつながりを大切にすることで潤う地域経済＝『心産業』を目指した。

2009年 「(株)西粟倉・森の学校」設立

- ・百年の森林事業により搬出された木材に付加価値をつけ商品化
- ・木材をできるだけ高く変える商品開発＝山主に還元
- ・ストーリーを加えた商品を高く売る＝心産業の実践
- ・西粟倉村のファンづくり＝マーケットづくり

### 2. 百年の森林構想

過去50年間と未来50年間の構想

- ・百年の森林に囲まれた上質な田舎
- ・衰退する一次産業にフォーカス
- ・自治体のチャレンジ

### 3. ローカルベンチャースクール開始

地域に根差した企業が必要である。100億円の企業誘致より1億円のローカルベンチャー100社を目指した。

これまでの16年間に52の事業が生まれた。思いを持った若者のチャレンジが集い地域に豊かな彩と多様な生態系が生まれつつある小さな村の可能性がみえてきた。

- ・情熱のとにかく熱い人材を選ぶ
- ・過去合格者の中に廃業した人はいない。

#### 4. ローカルベンチャー推進協議会

- ・地域で挑戦するロールモデルを創出します。
- ・地域で挑戦者が次々と生まれていく生態系づくりに取り組みます。
- ・私たち自身が挑戦者としてあり続けます。
- ・地域を超えてつながり、ともに進化し続ける全国ネットワークをつくります。
- ・私たちが生み出したノウハウを、日本中の地域に提供していきます。

##### 地方創生推進班の取組

民間と協力して、事業を生み出す公務員がいるだろう。

- ・「百年の森林構想」の着想から10年、次の西粟倉村の目指す姿を提案  
産業傾注→暮らし全般、地域の充実に拡大
- ・「ビジョン」+「実装事業」を創設する人材の育成
- ・民間事業者との共創事業を創出する人材の育成

##### 地域おこし協力隊制度の活用

- ・地域での活動内容が具体化  
起業型 : LVS等を経て起業(3年間支援=3年後独立)  
行政連携型 : 行政課題解決のプレーヤー  
企業研修型 : 地元企業の新規企業・起業拡大のプレーヤー

##### 支援体制

起業型: 各種研修等を実施し、事業の自立を支援

起業時の補助金: 地域おこし協力隊制度のみ

#### 5. TAKIBI プログラム (これからのローカルベンチャー施策)

火種 (村の中の願い) → 炎 (事業アイデア) → 大きな炎 (事業化) → 売上  
1億円以上

(地域のテーマ決定⇒ビジネスアイデアに昇華⇒アイデアを事業にブラッシュ  
アップ⇒雇用を生み出す事業創出)

##### SDGs 未来都市

森林信託事業による森林の集約化や、森林経営にそぐわない民有林について経済価値を判定した上での公有林化等を通し、地域全体の森林価値の最大化と最適化を目指す。資金調達にあたっては、森林ファンドを組成するとともに、投資家を関係人口として位置づけ巻き込むことで、地域の持続可能性を向上させる事業にも好影響を与える。

今回の調査で、身近にあるものに目を向けていく事の大事さを再確認しました。行政と町民が協力し合い、また思いを持った若者のチャレンジの場を設け、やる気のある若者が集い、それが雪だるまのように次々と好転して行くと感じさせられた研修でした。